

AOI通信

静岡音楽館倶楽部情報誌 March 2009 No.53

“♡” AOIは音触館

AOI Information Magazine

育 む



【HAGUKUMU・NE】

手にとるように、音と遊ぼう。

AOIでは創作界の活性化に寄与すべく、開館以来、毎年様々な作曲家への委嘱活動を実施し、本年2009年6月28日(日)に世界初演としてお披露目するオペラ《ポポイ》で、第20作を数えるまでになりました。そこで今回は、AOI初代芸術監督でもあり、日本を代表する作曲家として世界的にも知られる、このオペラ《ポポイ》の作曲家・間宮芳生先生に、公演に先駆けこの作品の誕生秘話やAOIへの想いなどについて、当館学芸員の小林旬がインタビューした模様をご紹介します。そのお話の端々に、氏が永年育ててきた夢を見事に成熟させ、奥深い“音楽”へと鮮やかに昇華させたオペラ《ポポイ》の魅力と、氏の想いが熱くほとばしります…

作曲家・間宮芳生が語る オペラ《ポポイ》とAOIへの思い…

Q1

このオペラ《ボボー》は間宮先生にとって、自身5作目のオペラということになりますが、今までの4作はいずれも日本の時代物を題材とした作品で、この《ボボー》は現代を乗り越えて、近未来が舞台となっています。この様な近未来物を題材に今回オペラを創られたのには、何か特別な理由とかがあったのでしょうか？

さらに、今回の《ボボー》や先生の過去のいくつかの作品に、スプラステック（血しぶきの）な題材がみられますが、先生はこの様なものに興味というか、何か特別な思い入れみたいなものがありますでしょうか？

その様な点も踏まえ、オペラ《ボボー》誕生までの経緯や、誕生秘話等について教えてください。

A1

うへん、そういう類の質問に格好良く答えられるスタンスを、あいにく持ち合わせてはいないので、上手く答えられるか正直自信がないけど…(笑)

まず、スプラスティックなものに興味があるか、と聞かれれば、答えはYesかな(笑)。

実は私、昔から水木しげるの大ファンでね。彼が描く超現実的で、超自然的な、幻想的な物語(世界)にはすごく興味があります。

あるいは上田秋成の『雨月物語』の中には、興味ひかれる部分がいっぱいある。オペラで言うと、ショスタコーヴィチの『鼻』をボクロフスキーが演出した上演なんかが、結構好きでしたね。

それと、倉橋由美子さんの小説に「アポロンの首」というのがあって、道端に変なものが落ちている、実はそれが人間の首で、女子学生がそれを持ち帰って育てる、という、超自然的な世界を描写していたんです。それにNHKのディレクターが目をつけ、同じようなテイストで新しいラジオドラマが書けないか、と持ち掛け、《ボボイ》が出来上がってきた。

それが、このオペラ《ボボイ》の、そもそもの原型＝プロトタイプだった訳です。ですから、最初の質問の、近未来物を題材に今回オペラを創ったのには、何か特別な理由があったのか、という質問に対する答えは…残念ながらNo。前4作のオペラは、例えば《昔噺人買太郎兵衛》にしる《夜長姫と耳男》にしる、当時私が興味を惹かれた創作素材が、たまたま日本の時代物だっただけで、それが今回は、倉橋さんが描いていた世界がたまたま近未来を舞台にしていた、というだけなのです(笑)。

Q2 では、そんな倉橋由美子さん原作の人気小説《ポポイ》をオペラ化
するにあたって、間宮先生ご自身がこだわった点とか、苦労された点などが
あったら教えてください。

A2

前4作の、日本の時代物を題材にしたオペラにしろ、今回の近未来を舞台にした『ボボイ』にしろ、たとえ描写する世界が変わろうと、私自身の音楽的表現手法は基本的に何も変わらないんですね。

ただ、自身のこだわり、というかポリシーとして、これだけは常に心掛けていて、気をつけている、ということが一つあります。それは「言葉が発する人の意志や、その言葉の意味を、歌う言葉のリズムの中にどれだけ乗せるせられるか」ということ。オペラを創作する上で、このことはとても重要なことだと、私は強く思っているんです。そういう意味で言うと、残念なことに、いままで日本で生まれたオペラの言葉の扱い方は、実にだらしがない、と思うのです。唱歌と同じような原理ではオペラは創れないですね。

ですから今回の『ボボイ』では、登場人物たちが発する言葉により、その意味にあわせリズムを巧みに操るなどして、聴衆の皆さんにそのキャラクターの意志や想い等が伝わる様な工夫を、随所に散りばめたつもりです。

Q3 今回のキャスティングや舞台などにも、とても興味深い点があると思うのですが、それらについてもちょっと教えていただけますか。

A3

オペラ『ボボイ』を皆さんにお披露目するにあたり、この演出を担当していただくのは田中泯さんしかいない、と思っていました。で、泯さんに演出依頼を打診した所、快くOKをいただいたので、私はもうそれだけで「よし! このオペラは大成功間違いなし!!」なんて思っちゃったんですね(笑)。

実際、泯さんによる演出プランは、これまたネタばらしになってしまうので(笑)ここで詳しくお話することは出来ないんですが、一言で言えば、今までのオペラには類をみない斬新なもので、かなり面白いものになっているので、本番当日、聴衆の皆さんがどのような反応を示すのか、作曲者の私自身も、今からとても楽しみにしています。



それから、個々のキャスティングに関しては超人間的なキャラクターのポボイをカウンターテナーの上杉清仁さんが、テロに遭って脳梗塞になってしまう元首相・見を能楽師の清水寛二さんが演じ、超現実的な声でそれらの特異な性格をより印象づけていく。これに対して主人公・舞ほかのキャストの声は“普通の人間”の声で表現し、しっかり差別化しています。

Q4

「ポパイ」というのは斬られた首の名前で、それがこのオペラのタイトルになっているわけですが、このオペラの事実上の主人公は舞なんですね。

A4 そう、このオペラ《ボボイ》は、実はボボイが主人公ではなく、主人公はあくまで、ボボイを世話する“舞”なんです。ですから、このオペラはある意味、“舞のオペラ”とも言えます。

そもそも私がこの《ボボイ》をオペラ化したい、と思ったのは、小説の中で倉橋さんが描いていた、ボボイを世話する舞という少女の、「利発聡明」な魅力に惹かれたから…とも言えるんです。

ボボイとの関わり、そして祖父や周りの人々との関わりにより、舞自身やボボイが微妙に変化していく様を、ぜひオペラで表現してみたかった…という訳です。

で、私の中では、この主人公・舞という少女のイメージは、どこか倉橋さんのイメージとダブっているんですね。ものを書く人は、一般的に良く喋る人＝喋りすぎる人が多いんですが(笑)、倉橋さんは正反対のものすごく静かな方で…。とにかく“もの”を良く知っている方だな、自我が構築された“揺るぎないものを持っている方”だな…という印象が強く、しかし人生的には「良妻賢母」という言葉がピッタリあてはまる、人間的魅力を兼ね備えた方＝女性、だったと思います。

Q5 最後に、このオペラ《ポポイ》以降の、間宮先生の今後の夢や活動予定、さらに、初代芸術監督を務められた、このAOIに関する思い出話などもお聞かせください。

A5

今はまだ、このオペラ《ボボイ》の初演のことで頭がいっぱいなので、今後のことを考えてる余裕なんて正直ないんですが…(笑)しいてあげるとすれば、一つには、長年に渡ってコツコツと書きためてきた日本の民謡のことを、集大成として一つにまとめた「民謡ノート」を創ってみたい。

そしてもう一つは、まったく個人的なことなのですが、意外にも私は、ヴァイオリンとピアノだけの作品を創ったことが過去になかったので、近い将来1曲は作曲しておきたい…ということでしょうか。

それと、AOIに対する思い出と言えば…いろいろあり過ぎて(笑)。

でもやっぱり開館のときに、フィンランドのオッリ・コルテカンガスといっしょに作曲した《木々のうた》ですね。それ以降、自分がとくに関心が強いからということもあるけど、AOIでは“声”を含む音楽を大切にしてきました。

今回のオペラ《ボボイ》も、AOIの歴史のなかで、その延長にあるのかもしれないけれど、これをきっかけに、AOIがまたさらに発展することになれば、私にとっても、まさしくこの上ない幸せです。

★間宮先生の興味深いお話、皆さんいかがでしたか!?
 このお話の中からも、“音の芽を育み、一つの音楽へと見事に昇華させていく”
 氏ならではの素敵なこだわりが、いっぱい感じられました。
 AOI発の世界初演となるオペラ『ポポイ』を、皆さん、ぜひお見逃し&お聴き逃しなく!!

☆本年1月に配信した「AOE通信」第52号・巻頭特集掲載内容に関するお詫びと訂正☆

●P1志村泉先生に対するインタビュー記事9行目「くこんにゃく体操」は別名・野口体操とも呼ばれていて～という部分の記述について、ご本人のお話の内容と異なる表現がありました。正しくは下記の通りです。

“「こんにゃく体操」は、東京芸大名誉教授の故宮川睦子先生と故野口三千三先生が、お二人で協力し共に研究を重ねて作られたもので、現在、当館の〈子どものための音楽ひろば〉で志村先生がご指導されているのは「宮川体操」です。”

以上、訂正お詫び申し上げます。

以上、訂正しお詫び申し上げます。

コンサートシリーズ09-10

Vol.
2

静岡音楽館AOI委嘱作品

オペラ

OPERA BOBOI

原作／倉橋由美子

脚本・音楽／間宮芳生

演出／田中泯

6/28 AOI発・注目の世界初演!! 日

15:00 開演 (14:30 開場) ホール (8F)

Value! 全指定 5,000円 静岡音楽館倶楽部会員 4,500円

Value! 22歳以下 1,000円

Value! 日曜日セット券 13,500円
静岡音楽館倶楽部会員 12,150円

当館7階インフォメーションほかにて
公演チケット只今好評発売中!

【主催】 静岡音楽館AOI 指定管理者 (財) 静岡市文化振興財団

【助成】 (財) 五島記念文化財団 (財) 野村国際文化財団

(財) 三菱UFJ信託芸術文化財団

文化庁
AGENCY FOR CULTURAL AFFAIRS

平成21年度文化庁芸術拠点形成事業

【後援】 オペラ〈ボボイ〉後援会

【特別協賛】 静岡信用金庫 **TOKAI**

【あらすじ】
時は21世紀も半ばにさしかかろうという、まさに近未来。
日本の首都の一角、政界のかげの大物と言われる、
元老の屋敷に押入った二人のテロ少年。
だが要求をはねつけられると、突然若い方の少年が割腹、
つれの同志がその首をはね、みずからも自殺——
という、すさまじい事の始まりだが、
しかしこの物語は、全く政治劇ではない。
斬られて胴体とわかれた少年の首は、
すぐさま生命維持装置の人工心肺につながれ、
首だけの人間になって大学の研究室で生きている。
そして秘密保持のため、
元老の孫娘・舞(まい)が首をあずかって世話をすることになる。
首は「ボボイ」と命名される(嘆きをあらわすギリシャ語の間投詞)。
舞のあふれる教養と、明るさと自由奔放さが、
少年の幼い魂をゆさぶり、未熟な心を次第に拓いてゆく。
少年は異性への思慕をはじめて知る。
舞とボボイ、舞と元老との不思議な魂の交流で物語は展開する。

このオペラ『ボボイ』は、数々の素晴らしい舞台芸術を手がけてきた日本を代表する作曲家であり、AOI初代芸術監督でもあった関宮芳生先生が、永年温めてきた構想＝倉橋由美子原作の人気小説を基に書き下ろした、作品全体に生命力や浪漫がほとばしる、注目の世界初演作です。まさしく、AOIから新たな伝説が生まれるその瞬間を、皆様ぜひお見逃しなく!!



- 【こちらも見逃し&お聴き逃しなく…】
- 《ボボイ》の魅力を、一足早く!!
- …………… 講 演 会 ……………
- 「間宮芳生・オペラ《ボボイ》を語る」
- 4/4(土)15:00 ■7階講堂にて
- ～入場無料(要申込)～

-
-
-

■Profile
間宮芳生
(作曲家)
Michio MAMIYA
(Comp.)

1929年、北海道旭川生まれ。幼少より父を師としてピアノを学ぶ。6歳より17歳まで青森市に住む。6歳で最初の作曲。48年、東京音楽学校（現・東京芸術大学）作曲科入学。作曲を池内友次郎に師事。在学中の50年、毎日音楽コンクール作曲部門入賞。52年、同大学卒業。53年、林光、外山雄三とともに「山羊の会」を結成、作曲家としての活動を開始。日本と世界の民俗音楽の多角的な探求の成果としての独自の個性的創作は、内外で高く評価されている。

作品は管弦楽曲、オペラ、室内楽曲、邦楽作品など、多岐にわたる。ことに〈合唱のためのコンポジション〉全17作、独唱とピアノのための〈日本民謡集〉全27曲、総上演時間4時間半におよぶ〈管文化庁芸術家大賞、毎日音楽賞、尾高賞、ザルツブツク・テレビオペラ賞金賞、小泉文夫賞など数多く受賞。また各国の音楽祭、シンポジウム、大学などから招請を受け、作品は世界各国で演奏されている。92年、紫綬褒章。99年、勲四等旭日小授章。95年より静岡音楽館AOIの初代館長、芸術監督として2005年までの10年間に、あわせて250におよぶコンサートの企画、制作にたずさわった。

第3期「ピアノ伴奏法講座」最終講義ドキュメント

■1/18(日) 13:30~14:30 ■講師=漆原啓子先生(ヴァイオリン奏者)
★テーマ★「演奏することは運動すること。身体の動きや使い方を勉強しよう!」

昨夏配信のAOI通信51号でご紹介した「ピアノ伴奏法講座」第3期受講生・6名の皆さんも、早いものでこのAOI通信53号が配信される直前の、3/15に開催された修了コンサートで晴れて“卒業”となりました。そこで今回は、第3期生最後の講義となった1/18の風景と、その際皆さんに採らせていただいたアンケート結果等を、ここでご紹介してみようと思います。奮闘ぶり。どうぞ、一緒にお楽しみ下さい。

※各々の素晴らしい成長の跡を感じられた3/15の修了コンサートの模様は、残念ながら締め切りの関係でここでのご紹介はできませんでした。あしからずご了承ください。



① まずは、スライドを使って〈骨〉や〈筋肉〉について勉強



② スライドで教材として使用されていた本は医学書です



③ 次に、椅子の座り方について実践指導



⑤ 受講生をモデルにわかりやすく解説



⑧ バレエ経験のある聴講生が急遽助手となってみんなをチェック



⑦ 一人一人をチェックして回る漆原先生



⑨ 受講生同士協力し合ってお互いをチェック



⑩ 最後に、野平多美さん(AOI芸術監督・野平一郎夫人/音楽評論家)から、「靴の底の柔らかさとかかとの高さは、ペダリングに非常に影響しますので注意して選んで!」とアドバイスも…。

おた
ま
ま
じ
ゃ
く
し
奮
闘
記

第3期受講生・6名の皆さんに、上記の様な質問にお答えいただいたアンケート結果をご紹介します。

- Q1 受講当初と何か変化がありましたか。 Q2 受講中、印象に残ったエピソードを教えてください。
Q3 静岡の印象はいかがですか? もし、お気に入りの場所などもあればぜひ教えてください。
Q4 最終回に向けて意気込みをどうぞ。

【伊賀あゆみ(いがあゆみ)さんの回答】

【プロフィール】東京音大、同大学院修了。
イギリス王立音楽院短期留学。現在、東京音大助手。

- A1. ホールで演奏する意識を持って練習に取り組む様になりました。また、姿勢や呼吸など、日々の生活を見直すようになりました。
A2. 野平先生はもちろんのこと、佐久間先生、漆原先生の、いつも音楽のことを考え、一音出すために感じられていることの多さに圧倒されました。漆原先生の講義では、音楽と身体の結びつきについて改めて考えさせられました。
A3. AOI近くのドレス屋さんを見つけて、お買い物も楽しめました。あと、「ホテルアソシア」は綺麗で、細かいところまで気の行き届いた素敵なホテルでした。特に、お茶の葉の香りのソープが良かったです。東京から1時間と近いのでこれからも、気軽に足を運びたいです。
A4. 自分の殻を破ることは大変なことですが、素晴らしい演奏家の先生と共演させていただけることに感謝しながら、思い切った演奏をしたいです。

【塩見貴子(しおみたかこ)さんの回答】

【プロフィール】スカラーシップ取得後渡欧。
英国王立音楽院、同大学院修了。

- A1. 先生方に芸術表現のための貴重なアイデアを頂戴する事で、自身に束縛されていた音楽が次第に解き放たれ、自由になってゆく喜びを感じました。とりわけ、野平先生には、デュオのアンサンブルというものが単に「1+1=2」ではなく、「1+1=∞(無限)」にまで高めてゆけるのだ、という計り知れない可能性についてご教示いただき、大変感謝しております。
A2. 毎回聴講される方々が、いつも熱心に演奏に耳を傾けて下さり、さらに励ましの言葉までくださったことです。
A3. 以前より、静岡には演奏やピアノ選び等のためによく訪れていますので、身近な地として感じています。音楽活動をしてゆく上で、静岡がこれからも大切な場所であり続けたいと思います。
A4. 講座では、先生方の教えのもと様々な作品の解釈について深く学び、また共演させて頂く事で、アンサンブルには不可欠である“音楽による対話方法”の知識を高める事が出来ました。その中で追求し到達した音楽を、まだまだ未熟ですが、修了コンサートでご鑑賞頂く事によって、より多くの聴衆の皆様と共有させて頂けたら、と心より願っております。

【梶村亜美(すぎむらあみ)さんの回答】

【プロフィール】愛知県立芸術大学2年在学中。

- A1. ピアノ奏者が弾くタイミング、音色の移り変わりで、音楽の持つ行き方が随分違うんだ!…と強く感じました。ホールでの響きも、少しずつ聴ける様になりました。
A2. スタインウェイ、ベーゼンドルファーのフルコンで練習。そんなホールでの練習は本当に楽しかったです!それと、毎回違うホテルを予約することも楽しみの一つでした。
A3. 静岡に着いたら「ちびまる子ちゃん」の絵で“静岡は、いいねえ”という旗が目に入ってきて、とても印象的でした。かわいいですね(笑)。
A4. 今まで教えていただいたことをしっかり踏まえながら、本番にのぞみたいですよ。相手の方の音を良く聴きながら、自分の演奏が出来たら…と思います。

【須関裕子(すせきひろこ)さんの回答】

【プロフィール】桐朋学園大学音楽学部卒。

- A1. 毎回内容の濃いレッスンで、受講と聴講によってたくさんの勉強をさせていただき、今まで気づかなかった新たな課題もいろいろとみえてきました。
A2. 野平先生が、いつでもどんなときでも、ヴァイオリンやフルートを生かす弾き方をされているのを聴いて、伴奏の大切さ・責任の重さを改めて感じました。2日間に渡り、先生方が長時間、ほとんどお休みされる間もなく、みっちりレッスンしてくださったことに、圧倒されました。感謝しております。静岡音楽館の方もすごく親切にしてくださって心が和みました。ありがとうございます。
A3. ほとんど、静岡駅⇔静岡音楽館AOI⇔ホテルの往復で観光はしていないのですが、静岡音楽館AOIホールの素晴らしいには、本当に毎回感激しています。
A4. 今までの8回のレッスン、本当にあっという間でしたが、すごく贅沢な、貴重な経験をさせていただき感謝しています。このホールで、このピアノで、素晴らしい演奏家の先生と弾かせていただけることに幸せ・喜びを感じながら演奏したいです。

【古澤幹子(ふるさわみきこ)さんの回答】

【プロフィール】ジュネーヴ音楽院伴奏科卒。

- A1. 演奏する曲へのさまざまなアプローチの仕方を教えていただいたことで、自分なりに曲の面白みを探し練習するようになりました。
A2. 毎回どんな演奏会で弾くよりも緊張しました。野平先生が弾いてくださると、私と同じ音符を弾いているとは思えないほど響きに違いがあり、ハーモニーの捉え方や、その場にふさわしい音を出すことの難しさを痛感しました。
A3. レッソンの合間にAOIから見える山の景色に癒されていました。AOIとホテルとの往復がほとんどでしたが、接した方々の温かさを感じました。
A4. 共演者を活かすことのできる伴奏者への道のりはまだまだだと思いますが、先生方の胸をお借りして、楽しみたいと思います。

【堀家徳子(ほりけのりこ)さんの回答】

【プロフィール】桐朋学園大学音楽部演奏学科を経て研究科卒。

- A1. 各先生方からの適切なアドバイスで、自分がどんな演奏をしたいのか、そのためには何が足りないのか、ということが、ハッキリ認識できるようになり、その足りない部分を克服したい!と強く思う様になりました。
A2. 他の受講生の方の演奏も、回を重ねる毎にレベルアップしていくのが感じられて、とても刺激になりました。
A3. いろいろ行ってみたい場所はあったのですが…。残念ながら、実際はホテルとAOIの往復だけでした。そんな私のお気に入りの場所は、ベーゼンドルファーの置いてあるAOIの楽器庫でした(笑)。
A4. 今までアドバイスいただいたことを心にとめて、自分なりにより磨きをかけてのぞみたいと思います。そしてコンサートでは、先生とのアンサンブルを私自身楽しむことが出来れば…と思います。

◆「ピアノ伴奏法講座」第3期修了生・6名の皆さんの今後ますますのご活躍を、私たちAOIスタッフも心より願っています。皆さんも、どうぞご注目下さいね。

ドキュメントAOI

訪問日
2008
11/17

～どこでもAOI～
「野平一郎 ピアノ・ミニ・コンサート」
静岡市立清水高部東小学校

AOIでは、次代を担う子どもたちに、幼い頃から身近に良質な音楽と接して欲しい…との願いから、世界的なピアニスト&作曲家であり、当館の芸術監督でもある、野平一郎が静岡市内の小学校等に出向き、その学校のピアノを使って、子どもたちを対象に楽しい音楽のお話も交えたミニ・コンサートを開催するという音楽普及活動に、毎年積極的に取り組んでいます。

ここでご紹介するのは、昨年11/17に静岡市立清水高部東小学校を訪問した時の模様です。同校の4年生～6年生まで、約400人の子どもたちが“超一流の演奏”を目の当たりにし、驚きと共に瞳をキラキラと輝かせていた、感動のライブドキュメント。どうぞ、一緒に楽しみ下さい。

【ミニ・コンサートでの演奏紹介】
■W.A.モーツァルト：トルコ行進曲 (K.331 (300))
■L.v.ベートーヴェン：交響曲第5番《運命》 op.67より第1楽章
■F.ショパン：華麗なる大円舞曲 op.18
小犬のワルツ op.64-1
■R.シューマン：《子供の情景》 op.15より《トイメライ》
■C.ドビュッシー：《子供の韻分》より
《ゴリウオークのケークウォーク》
■野平一郎：《音の旅》より
《子守歌》《汽車の旅》《メリー・ゴラウンド》
■F.ブーラン：《フランス組曲》より《カリヨン》



●前日の「ロシア・アバンギャルド・コンサート」の疲れも見せず、野平先生はAOI前から、小学校に向け元気に出発。



●小学校に無事到着



●吉田誠校長先生と野平先生



●まずはこの日のコンサート会場となる体育館のステージに今日使用する学校のピアノを仮セッティング

●一度解体し調律師さんが時間をかけて丁寧に調律（ピアノは見違えるようにリフレッシュ!!!）



●お待ちかねの子どもたちが会場となる体育館に大移動



●生まれ変わったピアノで野平先生は今日の演奏曲をリハーサル



●大勢の子どもたちが開演を心待ちに



●さあ、司会進行役の先生登場でいよいよ開演



●先生と一緒に、児童全員で元気いっぱい「野平先生へっ!!!」と大合唱



●元気いっぱいの掛け声に誘われて、野平先生にこやかに登場!



●まずは野平先生の楽しい音楽談義に子どもたちも興味津々

●そしてお待ちかねのコンサート。間近で聴く華麗で迫力あるピアノの生演奏に、子どもたちも思わずうっとり…（プロが弾くと学校のピアノもこんなに良い音を出すんだ…とみんなビックリ!!!）



●最後に、児童代表の子どもたちからお礼の花束贈呈



●野平先生、お疲れ様でした!

「うなぎ」に「おすし」に「おそば」に…etc.
ご紹介したい「お気に入り」があまりすぎて、ホント迷っちゃうなあ…(笑)

私のshizuoka
お気に入りスポット Vol.4
福田進一さん(ギタリスト)の巻



【福田先生の「お気に入り」～その1～西焼津・うなぎ料理専門店「三味(しゃみ)」
焼津市五ヶ堰之内177
TEL 054-620-4600



【福田先生の「お気に入り」～その2～末廣鰯安東店
静岡市葵区安東3丁目18-38
TEL 054-245-5261



【福田先生の「お気に入り」～その3～そばの実(そばのみ)
静岡市葵区川辺町2-2-3
TEL 054-251-8000

今は静岡市内に自宅を構えている私にとって、このAOI界隈には、お店の人とも超顔なじみの“いきつけ”と言えるご紹介したいお気に入りスポットが本当にいっぱいあるんですが、先の50号で池辺晋一郎先生に、「とんかつの蝶屋」さんや「魚河岸・大作」さん等を紹介されちゃったので(笑)、今回はもう少し視野を広げて、この界隈以外の穴場スポットを中心にご紹介してみますね。

静岡市内に自宅を構えている、と言っても、1年の大半は海外等で演奏活動、という生活をしている私にとって、日本、それも地元に戻ってきたら必ず食べたい、という大好物の一つが“うなぎ”。いまや世界中のいたる処で日本食にありつけるとはいえ、やっぱり“うなぎ”はここ日本、いや静岡が一番。特に私のお気に入りのお店は、現在は西焼津にある、うなぎ料理専門店の「三味(しゃみ)」。

このお店、元はJR静岡駅の南口のそばにあったんだけど、数年前に西焼津に移転して、とても落ち着いた洒落た雰囲気の鰻屋さんとして地元でも評判のお店なんです。そのうなぎの美味しさといったら、まさに天下一品。わざわざ足を運ぶ価値あり、の超オススメ店です。

そして、“うなぎ”に負けず劣らずの私の大好物といえば“おすし”。この“おすし”にも、私はホント目がないんです(笑)。そんな私のお気に入り店は、静岡市葵区の安東小学校の目の前にある「末廣鰯安東店」。

末廣鰯といえば、清水の末廣鰯が全国的にも有名ですが、ここはその大将同士が、共に鷹匠にある「末廣鰯本店」で修行を積んだ兄弟店。だからネタも腕も超一流。なのにとっても良心的なお値段で味わえるので、安心して(笑)気軽に行ける穴場なんです。

最後にもう一つの好物、おそば屋さんのお気に入りもご紹介。ここは、地元静岡の皆さんならご存じの超有名店なので、詳しくご紹介は割愛しますが、同じ葵区の川辺町にある、「そばの実」のかき揚げそばが、私は大のお気に入り。あのサクッとしたかき揚げとそばの絶妙の組合せは、もうヤミツキですよ。

いかがでしたか!? 皆さん。急にお腹がすいてきちゃったでしょ…(笑)よろしかったら、今回ご紹介の3店を、ぜひお試しあれ。

※このコーナーでは、AOIゆかりのアーティストの皆さんから、今後も様々なお気に入りスポット等をお教えいただきご紹介予定です。どうぞ、お楽しみに…

AOIふれあい伝言板

お客様から頂戴したご意見・ご要望をQ&A形式でご紹介

Q1. いつも素晴らしいコンサートをありがとうございます。野平先生が芸術監督になられてから、今まで以上に充実した公演を企画していただいて、とてもうれしく思っています。そのためか、最近「仕事の予定がはっきりしてから決めよう。」と思っているうちに、うっかりするとチケットが完売してしまい、残っていても自分の気に入らない席であることが多くなって会員であっても油断できません。今後はチケットをまとめて買おうかと考えています。(静岡市清水区・山村様)

A1. ご意見ありがとうございます。最近、山村様と同様の意見を多く頂戴するようになり、大変有難く感じております。チケットご購入に関しましては、「予定が決まってから…」の前に、ぜひAOIのコンサートの予定を先に入れていただけると、さらにうれしいです(^_^)さて、山村様にぜひお勧めしたいのが、会員特典の「リザーブ・シート・サービス」と、「セット券」でのチケットご購入です。意外と知られていないのがとても残念なのですが、この機会にぜひご利用いただければ幸いです。

※詳しくは…裏表紙の「耳よりINFORMATION」をご参照下さい。

Q2. 12/23の「クリスマス★コンサート」は、本当に素敵でした。日頃子どもと一緒に音楽を楽しみたいと思っていますが、AOIは本物の音楽を聴かせてくださる上に、料金的にも手頃なので、いつも本当に楽しみにしています。静岡が綺麗な音楽であふれる街になることを願っています。(静岡市駿河区・れおとママ様)

A2. ご来場いただきましてありがとうございます。AOIはクラシック・ホールでは珍しく、年齢による入場制限を行っていません。それは、れおとママ様が仰るように、「静岡が音楽であふれる街」は、幼い頃から質の高い演奏を目の当たりにし、人々の感性が豊かに育まれることで成されるものからです。しかしながら、これには保護者の皆様のご協力が必要不可欠です。お子様連れでご入場の際は、常にまわりの方を配慮した対応をどうぞお願い申し上げます。れおとママ様、今後ぜひお子様と一緒にコンサートをお楽しみください。心よりお待ちしております。

Q3. オルガンの音の強弱はどのようにつけるのですか?ピアノのようにタッチの強さで変化がつけられないので、とても難しいように感じのですが…。(焼津市・匿名希望様)

A3. 12/12ランチタイム・コンサート 椎名雄一郎のオルガンコンサートにご来場いただきましてありがとうございました。当館のオルガンは、「オルガンの王様」と呼ばれているパイプオルガンです。パイプオルガンは、パイプに空気を送り込んで音を出していて、一つ一つのパイプの音量は一定ですが、パイプの数によって変化させます。また、演奏者の足元にある「スエールペダル」というもので操作できる鍵盤もあります。ペダルを足指方向、踵方向に踏み込んでパイプに送り込む空気の量を調節します。ちなみに、当館のパイプオルガンのパイプの本数は…2,868本です!

育
音

(HAGAKUMU-NE)

私とAOIとのおつきあいは、「ピアノ伴奏法講座」に第1期生として参加したのが始まりです。神奈川県出身の私は、隣の県でありながらこれまで静岡で活動する機会がなく、ここAOI主催の「ピアノ伴奏法講座」に応募し、受講生として静岡に通うことがなかったら、この地には縁がないままだったかもしれません。私は幸いにも、第1期・2期の2年間にわたって「ピアノ伴奏法講座」を受講させていただいたのですが、学生時代も実家から通学し、卒業してからも、活動や催しへの参加はたいてい東京・神奈川の日帰りで済んでしまうという環境にいる私にとって、静岡まで泊まりがけで出向いて講座を受講し、とにかく2日間は集中して練習・勉強する、というこのことは、まさしく一大イベントで、あらゆる意味で“特別感”のある2年間だったように思います。何より、野平一郎先生をはじめ、日本の音楽界を代表する一流の先生方の、きめ細かい、継続的なご指導によって、伴奏の技術のみならず、自分の音楽そのものが毎回変わっていき、広がっていくのを実感できたのが嬉しいことでした。そしてそんな中で、真の意味での「ピアノを弾く楽しさ」に気付くことができたのは、かけがえのない宝物です。

この経験を糧に、いま私は地元神奈川を拠点に演奏活動・教育活動をさせていただいていますが、そんな私たちも憧れる一流の先生方が、小中学校を気軽に訪れたり、ここAOIで子どもたちに直接手ほどきしたりするなんて“すごいこと”を“さりげなく”やっているAOIって、本当に素晴らしい!と思います。首都圏のホールとはひと味違った温もり感の中でのこのクオリティーの高さ! 贅沢だな、静岡の人が羨ましいな・・・と心から思うのです。静岡の皆さん、こんな恵まれた、理想的な環境を大いに利用して、どうぞ音楽の芽を素敵に育んでいってくださいね。微力ながら私も、今後もできる限りお手伝いさせていただきたいと思っています。



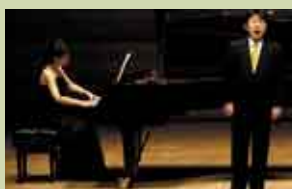
〈プロフィール〉

橋本直子 (ピアノ)
Naoko HASHIMOTO (Pf.)
桐朋女子高等学校音楽科を経て桐朋学園大学卒業。在学中、日本クラシック音楽コンクール入選。日本ピアノ教育連盟オーディション入賞、同演奏会に出演。現在、ソロ、アンサンブル、合唱伴奏など幅広く演奏活動を行うとともに、昭和音楽大学附属音楽教室講師として後進の指導にあたっている。
AOI主催「ピアノ伴奏法講座」第1期・第2期受講生。

《著作物紹介&今後の予定》

- (1) THE FLUTE 別冊20号 (アルソ出版)
※フルーティスト・難波薫さんとのトーク記事。付属CDに演奏も収録。
(2) 「きらきら」CDブック (アリス館)
※吉田六郎さんの美しい雪の結晶の写真と、谷川俊太郎さんの詩のコラレーション。付属CDの歌の伴奏を担当。

2009年6月27日 (土) ギャラリー楓 (神奈川県奈野市)
6月28日 (日) しまりすミュージックホール (川崎市麻生区) にて
アンサンブルうらら (クラリネット、ファゴットとピアノのトリオ)
コンサート開催
2009年10月 第9回国際オーボエコンクール・軽井沢に公式伴奏者として参加予定



★私事ですが、3月に結婚して改姓予定 (杉山になります)。「杉山直子」になっても、音楽活動は精力的に継続予定ですので、引き続きご支援の程、ヨロシクお願い致します。

2007年2月14日
第1期「ピアノ伴奏法講座」修了コンサート

目よ INFORMATION

静岡音楽館AOIコンサートシリーズ2009-10

お得な「セット券」
好評発売中!!

セット券なら
般¥1,000
お得!

「セット券」なら、第2期・第3期の人気公演チケットも今からご購入OK! 選り抜きのAOIプログラムをお得に満喫できるスペシャルチケットです。

【セット券ラインナップ】

■ベートーヴェン・ピアノ・ソナタ選集セット券

一般¥7,000 静岡音楽館倶楽部会員価格¥6,300

(1) 5/15 (金) 19:00 野平一郎 ピアノ・リサイタル

(2) 11/17 (火) 19:00 ベーテル・ヤブロンスキー
ピアノ・リサイタル

■日曜日セット券

一般¥13,500 静岡音楽館倶楽部会員価格¥12,150

(1) 6/28 (日) 15:00 オペラ《ボボイ》

(2) 9/13 (日) 15:00 東京都交響楽団 メンデルスゾーン名曲選

(3) 11/8 (日) 15:00 AOI・レジデンス・クワルテット

■バラエティ・セット券

一般¥10,000 静岡音楽館倶楽部会員価格¥9,000

(1) 7/18 (土) 15:00 民俗と都市の芸能「江戸の離子と箏歌」

(2) 10/10 (土) 18:00 シェフ池田の「おいしい歌はいかが?」

(3) 2010年
1/23 (土) 18:00 ロンドン響プラス・クインテット

会員の皆様へ・・・こんなサービス (会員特典) ご存じでしたか!?

リザーブ・シート・サービス

(静岡音楽館倶楽部会員特典) のご案内

年間を通して度々AOIのコンサートにお越し下さっている静岡音楽館倶楽部会員の皆様のために、当館では会員特典として、シーズンを通してよりお得にプログラムを満喫できる「リザーブ・シート・サービス」をご用意しております。ご存じなかった会員の皆様は、ぜひふるってご利用下さい。

■Aコース「スーパー・リザーブ・シート」

・・・第1～3期・全12公演セットで利用可

■Bコース「第1期・リザーブ・シート」

・・・第1期・3公演セットで利用可

※Bコースは各期 (第1期・第2期・第3期) 毎に販売致します。販売価格は、もちろん会員様ならではの特別価格でご提供致します。※会員先行発売よりもさらに早くチケットをお求めいただけます。※自由席・指定席問わず、全ての公演を同じお席でお楽しみいただけます。

★いずれも詳しくは、7階インフォメーションまでお気軽に・・・★

〔静岡音楽館倶楽部法人会員〕 2009年2月末現在・50音順

かわした歯科クリニック/コカ・コーラセントラルジャパン (株) 静岡支店/
(株) サンタモンコーポレーション/静岡ガス (株) 音楽部/静岡ターミナルホテル (株) / (株) 静岡博覧会/鍼灸・指圧六番町ぬちぐすい/株式会社タミヤ/株式会社社竹酢/三菱電機 (株) 静岡製作所

〔特別協賛〕 静岡信用金庫 TOKAI



手にとるように、音と遊ぼう。
CONCERT HALL SHIZUOKA

静岡音楽館 AOI

お問合せ (054)251-2200 〒420-8691 静岡市葵区黒金町1番地の9

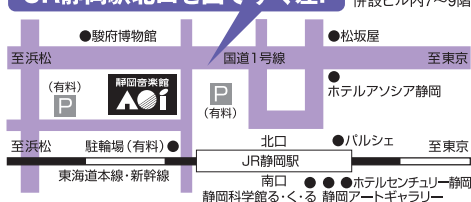
月曜日休館 (ただし祝日開館、翌日休館)

URL <http://www.aoi.shizuoka-city.or.jp>

e-mail info@aoi.shizuoka-city.or.jp

JR静岡駅北口を出てすぐ左!

静岡中央郵便局
併設ビル内7～9階



*お出掛けの際は、なるべく電車、バスなどをご利用ください。
*自転車は駐輪場をご利用ください。